

令和6年度 第4回九州森林管理局国有林材供給調整検討委員会 【議事概要】

1 日時及び場所

令和7年3月17日（水）13時30分～15時46分

九州森林管理局 2階 大会議室

2 議題

- （1）木材の需給動向等について
- （2）木材需給動向を踏まえた国有林材の供給調整について
- （3）その他

3 議事概要

【委員会の検討結果】

現時点で追加の供給調整は必要なく、引き続き民有林材の出材状況、原木価格の動向、工場等の原木仕入れ状況などを注視しつつ需給バランスを見極めながら、計画的な供給に努めるべきである。

【主な意見】

- 合板業界の状況については、2024年の生産量は前年（2023年）比で若干の減であり、東北震災があった2011年に次ぐ低い数字となった。出荷量も2011年に次ぐ出荷量となっており、前年（2023年）比で1%の減となっている。2024年末の在庫量は2023年末に比べると若干の増となっている。合板業界の生産量は、需要に見合った生産を行っている。

当社の状況については、九州内のお荷量に見合った生産量で稼働している。九州内での合板の市況は回復の見通しが未だ立っていない状況である。

原木については、スギ・ヒノキともに入荷は順調であり、また市場においても過不足感を感じられない状況であるので、国有林材の供給は今の状況を維持していただきたい。

- 紙の出荷量について、2024年の出荷量は前年比－2%で家庭紙・生活用紙がインバウンド需要で増えたこともあり、当初の予想よりプラスとなった。紙の輸出は出荷量全体で7.8%と割合が非常に小さいが、円安の追い風ということで昨年は前年比10.3%と増えている。パルプの生産についても輸出が少し増えているので、今後も国内でのチップの引き合いが強い状況は続いていくと予想。

原木輸出について、12月・1月は前年に比べて増えているが、中国は春節前から荷動きが低調で、上海のスギ丸太の在庫量が増えていることで、新しい契約が若干慎重になってきているような状況である。

燃料用の丸太について、不足している状況は変わっていない。

国有林の供給調整の必要について、C材・D材は逼迫状況が続いているので、C材・D

材の供給量を増やしていただきたい。

- 昨年は新築着工戸数の減少や輸入材の港頭在庫が多かったことで、製材工場にとって非常に厳しい1年であった。

建築基準法の改正がどう影響するかである。駆け込みによる反動減があれば、7月から8月ぐらいに木材需要に影響が出てくるのではないかと考えている。

今後は輸入材から国産材へ代替需要がプラス要因として見込まれ、業界が輸入材から国産材への比率をどう高めていくかと、その努力をどこまでするかというところである。九州内は非常に国産材の比率が高いので、九州以外の消費地において、多少なりともその可能性はあるのではないかと考えている。

九州の製材業では最近信用不安が出ており話題になるが、設備投資して規模が大きくなっており、広域での原木の集荷及び製品の販売によって原油高に伴う運賃コストの高騰により取扱量が多くなればなるほど負担が大きくなる。製品価格において値上げ交渉はしているものの現実には値上げは厳しいところである。

国有林材の供給について、新年度に向けて供給の事務手続き等を円滑にやっていただいて、早く新年度の供給をスタートできるようお願いしたい。

- 当社の現状は、昨年の10月の終わりぐらいから製品需要が増えきて現状では生産したものが全て売れているという状況。昨年10月まではかなり苦しい状況で余剰在庫を持っていたが、それも1月初めぐらいには全て在庫がなくなって、1月からはその月に生産できる量のみ販売が現在まで続いている。

都城地区全体で3,000円の値上げを業界新聞で発表。九州と本州では温度差があり、本州では去年の9月ぐらいのKD材の価格で1m³当たり50,000円や中には50,000円を割るような金額で流通していた。当社も55,000円であったが、今年に入ってから本州のお客様を中心に価格を10,000円程度上げさせていただいている。九州は販売先の理解があり、そこまで下がっていなかったので3,000円の値上げを行っている。

住宅需要はかなり少なく、これも全国的にどのお客さんに聞いても決して良くはない。プレカット工場においても20%・30%ダウンしており、当社の販売先の中には半減しているところもあり、全体的に見て良くはない。

4月からの建築基準法の改正によって、少し荷動きが止まれば多分製材メーカーとしてはそこで価格を下げていくのではなく在庫にしていけるのではないかなと思う。

- 当社の2024年の原木の取扱量は、前年対比92%、売上に対し前年対比94.3%となった。平均単価は前年に比べると300円ほど上がっている。これはヒノキの単価が高値で維持されていることが影響したものと思う。

素材丸太の取扱状況について、昨年末はトラック問題で山から搬出できない状況があった。今年は1月から2月に若干雪の影響もあったが、徐々に収まり順調に回復している。

南九州で昨年は特に厳しい入荷状況となった。これは輸出用やバイオマス発電用、ま

た製材工場へ山土場からの直送が年々増えており、その影響を受け取扱量は大きく落ち込んだ。

本社の取引先より丸太集荷の強化依頼があり、昨年は18万m³の目標未達成であったが本年は対前年比の約10%以上の増、それ以降は更に対前年比の10%の増との要請を受けている状況である。このため素材生産者の確保、トラック運送・造林業者とサプライチェーンの構築をさらに強化するように進めている。

国有林材の供給調整については、丸太の不足感があるので、今後も安定した供給をお願いしたい。

- 市場の7月から2月までの動向は、丸太取扱量は対前年同期比0.5%減少で留まっている。平均単価は11%ほど高くなっており取扱高も同じ11%増となっている。

3月5日の市売りの状況は、スギは応札されるものの、全体的に安値買いの模様にあった。輸出業者からの応札は多いが、動きは様子見や小幅の状況だった。ヒノキは様子見の姿勢、全体的に価格は維持されている。

輸出について、中国の在庫量は通常の在庫量をはるかに超えているので、中国側の製材所が安く交渉している状況にある。そのようなことから、市売りの動向から輸出業者も消極姿勢の様子見の状況になっていることが裏付けられる。

国有林材の供給については、各委員からあったとおり現在の動向を十分踏まえながら、計画的な供給をしていただければと思っている。

- 弊社においては、昨年の1月から8月までは非常に悪かったが、9月から盛り返してきた。徹底的にゼネコンへ営業し非住宅を受注、公共工事を受注したことから、12月からのプレカット加工坪数の実績は、12月は+11.1%、1月は+8.8%、2月は+8.6%、3月は途中であるが+13.7%の予想である。この3月の予想が、これが少し駆け込み需要になるのかと感じている。

米マツの丸太が3月に20%ぐらい値上げするようである。ヨーロッパ材の集成材が価格は完全に決まっていらないが、10%ぐらいの値上げをすると聞いている。ただ量は非常に少ないとのこと。

今後、需要がどれだけ出てくるかということである。現状では市場でも丸太が不足していると聞くと、丸太不足の中、製品はあまり高く売れないので、外材の輸入が多分少なくなってくる可能性がある。そのようなことから国産材の値段が高くなってくる恐れがあるので、国有林材の供給を若干増やしていただきたい。